

**第 79 回国民スポーツ大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会
第 11 回全国障害者スポーツ大会専門委員会 議事概要**

1 日時

令和 4 年(2022 年)1 月 27 日(木) 10:00~11:40

2 場所

東館 7 階大会議室

3 出席委員(五十音順、敬称略)

伊勢坊 美喜、大西 孝雄、大平 眞太郎、小倉 繁昌、小野 ゆかり、川並 正幸、北田 千尋、近藤 寛子、大道 敏喜雄、高木 正二郎、永浜 明子、西山 克哉、原 陽一、安武 邦治

(委員総数 19 名のうち 5 名欠席)

※事務局：岡田事務局長 他 8 名

4 会議概要

(1) 話題提供「東京 2020 パラリンピック競技会に参加して」北田委員

① コロナ禍での大会

- ・ ボール、会場内、バス等消毒作業に係るスタッフの作業量が増加。
- ・ 他国の選手はもとより自国の男子チームとも接触を控えていた。
- ・ チームによっては試合日程が終わるまで食堂を利用せず、スタッフが食事を食堂に取りに来て部屋で食べているところもあった。
- ・ 消毒については、自動噴霧かスタッフに直接吹きかけられるかのどちらかだったので、不自由はなかった。足踏み式や手押し式は障害の種類や部位によっては使いづらいため配慮が必要(滋賀障スポで対策をする場合)
- ・ 毎日の PCR 検査も慣れてしまえば負担に感じることはなかった。

② 報道について

- ・ 自国開催ということで連日たくさんの報道があり、リアルタイムで声援が届いてモチベーション上がった。一方で、一切テレビ中継のなかった競技もあり、ビジネスとしての難しさを感じた。選手はそれぞれに努力を重ねているので、障スポでは各競技にスポットライトが当たるようにしてほしい。

③ スポーツの意義

- ・ パラスポーツの魅力を多くの人に知ってもらうきっかけになったと思う。実際所属チームへの問い合わせ(見学・スポンサー契約希望)の他、地域の小規模大会に関してもどのチームが出るのかといった問合せ

があり、今までになく関心が集まっていると感じている。

- ・今大会を通じて、「障害があっても頑張っている人」という福祉の視点ではなく「スポーツで生計を立てるアスリート」として見てもらえると実感した。(ex:勝てば称賛され、負ければ批判される。記事も社会欄ではなくスポーツ欄に載る) パラスポーツもようやくここまで来たかという感覚。
- ・大会開催に関して様々な意見があることは承知しているが、少し社会を明るくできたのではないかと思っている。滋賀の障スポもそういう大会になればいい。

④滋賀障スポに向けて

- ・今大会で高まった関心が今後も継続し、選手発掘等にも効果があると考える。またパリパラリンピックで熱が再燃する可能性もあり滋賀障スポに向けては大きな追い風になる。

【質疑・意見】

事務局：感染に対する不安感はどうだったか。

委員：正直感染のリスクは常にあると思っていた。完全に隔離された環境ではないし、事情によりワクチン接種をしていない選手もいた。ただ毎日検査をして、周りは陰性の人だけという状況はお守りというかある種の安心感につながったと思う。

委員：大会に帯同する監督等と話していた時には「(賛否両論ある中で開催されることから)逆効果になるのではないか」という声もあったが、結果的には非常に盛り上がることとなりよかったと思っている。県内においても、どの競技も熱が高まっており、身体障害者については選手発掘も進んでいる。パリパラリンピックまでこの波は継続すると思われるので、安心して準備に取り組んでほしい。

委員：障スポの東京大会やリオパラリンピックで印象に残っているのは到着(入村)時の歓迎行事。おもてなしの一環として滋賀障スポでも取り入れてもらえるといい。

日本でもパラスポーツの認知度が向上し、木村敬一選手のような有名選手も出てきた。しかし、海外に比べるとまだまだと感じる。ロンドンパラでは伴走者の声が聞こえないほどの歓声があったと聞いているし、リオでも「〇〇選手を応援に来ました」というように健常者の競技と変わらないものとして認識されている。滋賀大会を契機にそういう意識が醸成されるようメディアをうまく使って広報してほしい。

(2) 審議事項

※事務局から「第24回全国障害者スポーツ大会選手団サポートボランティア養成基本方針（案）」について説明

【質疑】

委員：どの程度の人数を募集するのか。県内に規模の大きい大学は少ないように思うが、十分集まるのか。

事務局：先催県では概ね800人を目標に募集している。全ての学生が練習日等を含む日程（6日間）に参加できるわけではないため、最終的な人数はもう少し増えるようだ。

県内の大学等に今年度から順次説明に回っている。すでに前向きな返答をいただいているところもあり、来年度も継続して説明に伺い、できるだけ多くの方に参加いただけるようにしたい。

委員：研修のカリキュラムの中でバリアフリー設備のことについて（こういった設備なのか、そこでしか目的を達成できない人がいるということ）も触れてほしい。共生社会実現のため、若い世代に知識を持ってもらい、広げてもらうことが大切。

事務局：参考にしたい。

委員：実際に学生を募集する方法はどのようになるのか。

事務局：各校の事情に合わせてそれぞれでお考えいただくことになる。

委員：参加された学生に障害のある方がスポーツをする意義を感じてもらえるといい。また、体験学習の際には振り返りの時間を持てるとういのではないか。

事務局：参考にしたい。

委員：県大会等で予行練習できるとよいのではないか。

事務局：開催年の春にリハーサル大会を行うので、そこを活用できるかもしれない。先催県の取組も参考に検討したい。

委員：対象は学生だけか。

事務局：そうである。広く募集するのは大会運営ボランティアと手話・要約筆記ボランティアを予定している。

委員：資料P2に「国スポのみ」とあるがどういう意味か。

事務局：募集主体によって行が分かれている。国スポの競技運営は市町が行うためボランティア募集は市町が行う。障スポについては、上の行にあるとおり県が募集する。

(3) 報告事項

※事務局から「第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会滋賀県開催準備委員会第9回および第10回常任委員会の決定事項」、「第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会警備・消防防災基本計画」、「第24回全国障害者スポーツ大会特有の準備進捗状況」、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポイメージソング」報告。

【質疑】

委員：障スポ特有競技の競技役員養成について、資格取得者の中には大会本番では選手団役員（コーチ等）や選手で参加してほしい方もいる。対象となる人材に限られる中仕方ない面もあるが、公金を使う以上本番で審判等を担う人をきちんと養成していかなければならない。今後は見極めがより重要になってくる。

事務局：ご指摘の点を踏まえて、今後とも養成に努めてまいりたい。

委員：オリパラについて、障害のある子と生活する状況ではリアルタイムで観戦することは難しかった。そういう家庭もあることも知ってほしい。

また、大音響の会場の中、カームダウンルーム（心を落ち着けるための部屋）もないような状況では発達障害や知的障害のある子を安心してスポーツ観戦に連れていくことは難しい。現在建設中の施設がどのようになっているかわからないが、障スポでは観客にも配慮してほしい。

ボランティアの中には障害のある人に会ったことがない人も多くいると思うので、発達障害者週間や障害者週間での小規模な体験会などを通じて理解を深めてもらってはどうか。リハ大会だけでは正直不安がある。

委員：選手発掘ということで、来年度以降の県大会に出ていただいた方から滋賀障スポに向けて強化を進めていく予定。一人でも多く出場いただけるよう皆様からも働きかけをお願いしたい。